

組織的展望のない「地本」のデッチ上げ 実態

日刊 動労千葉

81.5.30 No. 752

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(公衆)三三三(宅)二七二〇七

「本部」派には未来がない!

いま動労「本部」反動分子は、七月十四日(十八日開催予定)の三〇周年記念全国大会を前にして、破産したデッチ上げ「千葉地本」再建策動を糊塗せんとして新たな動労千葉組織破壊攻撃を画策している。それは、第一に、みたび目の銚子支部破壊「本部」派支部デッチ上げ策動であり、第二に、盛岡・仙台台よりの千葉帰任者をデマとベテン、酒食をもてなしての「本部」つなぎとめ策動である。われわれは、かかる動労千葉破壊攻撃を断じて許さず、三月ジェット決戦をうち抜いた団結力をもつて粉みじんに粉砕しきらねばならない。

破産を約束されたデッチ上げ「地本」

動労「本部」反動分子は、権力・国鉄当局による動労千葉への大量不当処分攻撃と軌を一にして「動労千葉解体の絶好のチャンス」とばかり組織破壊攻撃をかけてきている。この行為こそ、あたり前の労働運動をあたり前にやるなど口先でいいつつその実、権力・当局による動労千葉への不当処分攻撃を尻押しするといふ、およそ闘う労働組合とは無縁な存在であることを自己暴露している。

それゆえに、動労千葉千三百組合員は「本部」反動分子に怒りを倍加させ組織的前進をかちとっている。

「本部」反動分子がデマとベテンを使ってデッチ上げ「地本」の内部固めを必死に行っても所詮むだなことである。それは組織的展望の面からいっても確実に破産が約束されているからである。

じり貧状況の組織人員

その理由の第一は、本年度千葉局採用運転予科生四十名の内のたったの一人たりともデッチ上げ「地本」は獲得できなかったことにみられること、今後も彼らの新採獲得は一〇〇パーセント不可能である。

第二に、デッチ上げ「地本」八〇名弱の組合員中のハトラの子(他局からの短期転勤者二八名

はすでに本年三月で四名が各々の出身局へと帰任してしまっており、さらに本年十月までには九名、来年三月にはさらに十一名が帰任し、最後の残り四名も八三年中に帰任し、組織人員は激減してしまっている。しかも、土屋幹一味についた大部分の「本部」派組合員はむこう五年間のうちに退職をむかえ組織人員のじり貧は確実であるのだ。

ちなみに、「本部派新小岩支部」は現在八名であるが、八二年三月に短期転勤者六名が帰任してしまいい、残りは結局二名(格和、木皿)のみになり、この二名も五一才という年令が示すように、組織が自然消滅するのは必然である。「本部派津田沼支部」も同じく現在十五名であるが、その内六名は来年三月に帰任し、更に八三年三月で三名が帰任し、残るは革マル・スパイ分子嶋田誠をはじめ六名のみというお寒いかぎりの実態である。しかも嶋田自身も東京・松戸電車区へ逃亡せんと転勤願いを出している有様なのである。「本部派佐倉支部」も、本年九月で九名が帰任してしまい、残る大多数は高令者のため年々退職してしまい、組織の先細りははっきりしている。

この組織実態が示すように、デッチ上げ「地本」は組織的展望がお先きまっくらなのである。それゆえに、昨年三千万円、本年以降向う三年間毎年二千万円の組織対策費をつぎこみ「再建」の仮象をつくらうとしている。しかし、それもドブに捨てるムダ金よろしく革マル派の運動資金か土屋幹のゴルフ資金に化けるのが関の山であろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!

対抗支部回ろ

囲碁将棋大会終る

去る五月二三日、千葉職員集会所において、各支部より三十七名の参加で第三回支部対抗囲碁・将棋大会が開催されました。

熱戦の末、将棋の部では、勝浦支部チームが前回優勝の蘇我支部チームを破って優勝し、囲碁の部でも二連覇をたたきました。結果は、つぎのとおりです。

将棋の部

- 優勝 勝浦支部 (沢、末吉、宮本)
- 準優勝 蘇我支部 (小幡、小野、森塚)
- 三位 津田沼支部 (深見、窪岡、綾部)
- 敢闘賞 混成チーム (鶴岡・カウ、橋本・ナタ、伊藤・シワ)
- 優勝 勝浦支部 (大河原、高梨、中村)
- 準優勝 勝浦支部 (齊藤、高田、庄司)
- 三位 津田沼支部 (深見、窪岡、綾部)
- 敢闘賞 幕張支部 (篠塚、中村、宇田川)